

伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュース

伊豆沼・内沼に秋の訪れ

9月13日朝、伊豆沼南側（三工区）の水田で今年初飛来のマガン32羽を確認しました。

マガンの飛来は、平年（21日飛来）より8日早く、昨年（22日飛来）より9日早い飛来です。

（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
〈事務局〉
〒989-5504
宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217
ホームページ: <http://izunuma.org/>
E-mail : izunuma@circus.ocn.ne.jp



三工区で今年初飛来のマガン32羽を確認(9/13撮影)

◇活動報告

第55回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン

9月23日に、伊豆沼・内沼周辺で「第55回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン」が開催されました。秋晴れの中、周辺地域の方々をはじめ、地元企業や小中学校など多くの方々にご協力いただきました。

今回の参加者は891人で、回収したゴミの量は1.6tでした。おかげさまで、きれいにさせていただいた水辺で、観光客や渡り鳥を迎えることができそうです。



開会式の様子



作業の様子

回収したゴミ

第6回伊豆沼・内沼自然体験講座

9月14日（日）に第6回伊豆沼・内沼自然体験講座「伊豆沼漁師体験」を開催しました。沼の漁師が使う、定置網や刺網、つかごを体験してもらうイベントです。

魚とりに夢中になる子どもたちもたくさんいて、普段間近で見ることできない沼の魚を捕まえる姿はとても楽しそうでした。子どもたちにとって、自然体験のいい機会になったのでは？と思っています。



みんなで網をひっぱるぞ！



船に乗って網を仕掛けた場所へ



どんな魚が入ったかな～？



大物つかまえたよ！

伊豆沼・内沼秋の観察マップ



マガン

伊豆沼・内沼を代表する渡り鳥です。今年は9月13日に初飛来しました。冬に向かうにつれ、マガンの数が増え、沼周辺の田んぼで餌を食べている様子を見ることができます。



マガンは毎日、日の出ごろに沼から一斉に飛び立ち、周辺の田んぼへ飛んでいきます。空一面がマガンで埋まる朝の飛び立ちは、一見の価値があります。日が暮れる頃には、田んぼから沼へときれいなVの字になって帰ってきます。



ウォーキングやサイクリングに最適です！



内沼の周りは、徒歩1時間くらいで一周することができます。



ノシメトンボ

秋の沼周辺で最も目にするトンボです。4枚の翅の先端に黒色斑があり、メスは黄色、オスは赤褐色をしています。池沼においてペアで連結して飛んでいる姿をよく見かけますが、これは空中から卵をばらまいているのです。

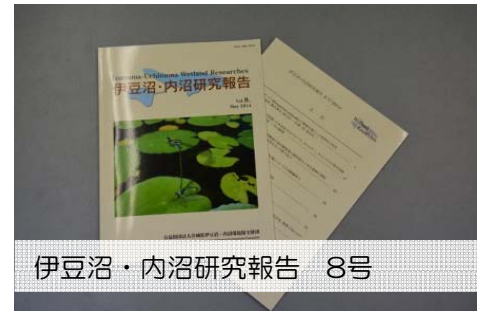


アキアカネ

「アカトンボ」として親しまれている本種。実は羽化したばかりの体色はオレンジ色をしています。オレンジ色の間は平地から山へ移動し夏を過ごします。秋になると体色は赤に変わり、山から降りてきて池や田んぼで産卵します。

「伊豆沼・内沼研究報告 8号」発行

伊豆沼・内沼を中心とした平野部の湿地に関する論文を取りまとめた「伊豆沼・内沼研究報告」を今年度も発行しました。「カモのヒナを食べた魚」の報告など、今年も面白い研究が載っています。なお、この研究報告については、館内の図書コーナー及びホームページでご覧になることができます。



伊豆沼・内沼研究報告 8号

「新人職員紹介コーナー」森 晃 (もりあきら)

4月から職員となりました森 晃と申します。東京都出身で、趣味でメダカを飼い始めたことをきっかけに、水田の生きものや環境について興味を持ちました。大学院では「ナマズ」を研究しました。ナマズは、日本人にとってなじみ深い魚ですが、その生態は実はよくわかっていません。そこでナマズのお腹に発信機を埋め込み、彼らの生活を一年間を通して追いかけたところ、面白い生態が見えてきました。現在、財団では主に水草(クロモ)の復元活動や、沼や水田周辺の生物調査をしています。また、サイクリングが趣味で、見知らぬ土地を走るのが好きです。お会いした時は、ぜひお声をかけていただきたいと思います。

